

令和5年度 第43回 中国地区公立学校教頭会研究大会(島根大会)
第35回 島根県公立小中学校教頭会研究大会(出雲大会)

第5分科会 「教職員の専門性に関する課題」

持続可能な研究・研修の在り方を考える
～主体的に学び続ける教職員チームをめざして～

令和5年11月10日(金)

島根県松江市中学校教頭会 松江市立美保関中学校 西村 勝美

松江市立美保関中学校の概要



海と朝日の美保関学園



松江市立美保関中学校の概要



広い校区のためスクールバスで通学



朝マラソン



ふるさと学習「関乃五本松節」



ふるさと学習「ボート」

松江市立美保関中学校の概要

■学校教育目標

広い視野と温かい心をもち、主体的に行動できる生徒の育成
～体力、気力、徳力、知力の調和ある生徒の育成～

■経営の重点

- (1) 自他の人権を尊重する教育の推進
- (2) 確かな学力を身に付ける教育の推進
- (3) 心と身体の健康をめざす教育の推進
- (4) 家庭・地域と連携した教育の推進

○人権を尊重し、多様性を認める集団づくり

○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり

■研究主題

課題を解決するための知識・技能・思考力を身に付け
仲間とともに主体的に学ぶ生徒の育成
～主体的な学びを支える課題設定の工夫～

提言の主旨

学び続け、
高め合う教職
員集団づくり

新しい教育課題
等に対応する
ための多忙感

中学校の課題
である
教科の壁



限られた時間の中で効果的に研究・研修を
進めていくための教頭としての役割

主体的に学び続ける意識をチームとして醸
成するための教頭としての役割

研究の経過（1年次）

1年次（実態把握・試行錯誤による実践）

【課題】

- 教職員の協働的な組織づくり（大量異動により行事や活動に見通しが持てないことや一人あたりの校務分掌の多さ等による多忙感）
- 生徒の学力向上と個別の支援



●外部の関係機関・指導講師等とつなぐ

●教頭自身が研修を企画

▲研究体制の構築

研究の経過（1年次）

●外部の関係機関・指導講師等とつなぐ

○コーディネーター

○校内で解決できそうもないことは、適所に相談し、連携する。



小中合同学校運営協議会・学園教育推進会議で、地域で育てたい子ども像を協議

- ・特別支援教育専任指導主事の派遣要請
- ・県教委や市教委との連携
- ・児童相談所、市役所各課との連携
- ・地域の人材活用（学校運営協議会、学園教育推進会議、地域学校協働本部）
- ・保小中の連携（月1回の保小中管理職会、小中合同職員会議等）

研究の経過（1年次）

●教頭自身が研修を企画

△職員室の担任

○教職員が求めている情報をピンポイントで、短時間で提供できる。

- ・ 新学習指導要領が求める評価について
- ・ 探究的な「総合的な学習の時間」とは
- ・ 道徳科の授業づくり
- ・ ICT活用について
など



道徳授業づくり研修

研究の経過（1年次）

▲研究体制の構築

×マネージャー
×ファシリテーター

■研究のゴールが共有できていない。

- ・ 一人一研究授業が計画どおり進まない。
（行事等の見通しがもてないための多忙感）
- ・ それぞれの担当教科で研究授業を行うため、
他教科の授業を見に行く意義が見出せない。
- ・ チームとして高め合い、学び続ける意識を醸
成できていない。（人間関係づくり）

研究の経過（2年次）

2年次（1年次の振り返りに基づく実践）

①共通のゴールと重点教科の設定

- ・ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善とICT活用能力の向上を共通のゴールとする。
- ・ 人権教育の公開授業があることに併せ道徳科を重点教科とする。

校長の経営方針の
重点を具現化

②計画的な研究・研修時間の確保

- ・ 組織、生活時間の見直し（多忙感の解消）
- ・ 研究・研修職員会議の設定
- ・ ミニ研修の実施（職員会議はじめの5～10分）
- ・ 県教育委員会指導主事による継続的な訪問指導

③教頭による研修・公開授業の実施

取組の実際

①共通のゴールと重点教科の設定

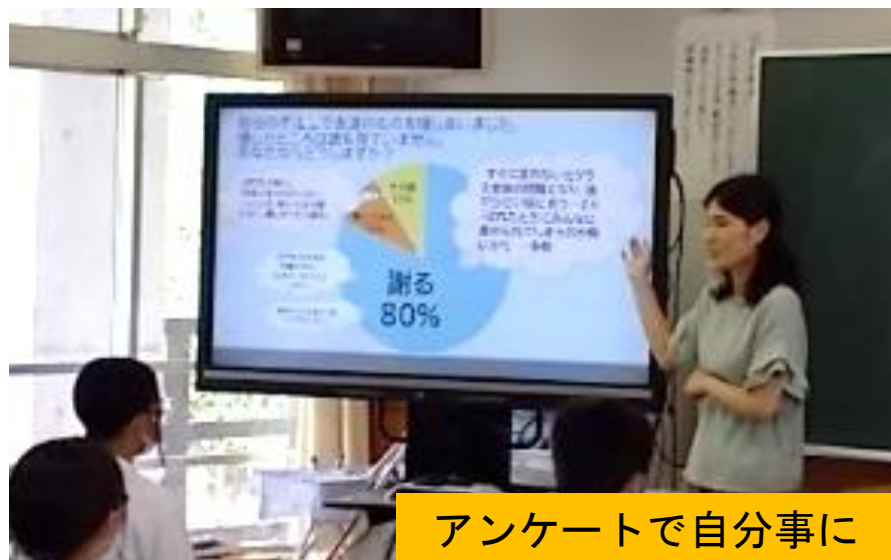
- 全員が道徳科の授業公開を行う。
 - ・学年部の枠を超えたローテーション道徳を計画的に実施。
 - ・協議は短時間で。拡大指導案に付箋でコメント。
- ICTをまずは道徳科で使ってみる。
 - 専門教科の授業への波及。



共通の教科であること、ICT活用が切実な課題であることから、参観者が増加

取組の実際

①共通のゴールと重点教科の設定



アンケートで自分事に



タブレットを見せて意見交換



役割演技



2023/07/12
 参加者が増える

取組の実際

①共通のゴールと重点教科の設定



3年1組 道徳科 学習指導案
 令和5年 5月26日(金) 3校時
 場所 3年生教室(3階)
 指導者 後長 美帆

1 主観名
 規律の意義とは
 2 指導内容
 C(10) 道徳精神、公德心
 3 資料
 「二道の手紙」(新訂 新しい道徳3 P175 東京書籍)
 4 ねらい
 元さんの行動と意思を考えたことを通して、法や決まりについての意義を理解し、社会の秩序と正しいこととする道徳的実践意欲を育てる。

重点指導する小中一貫教育授業づくりの視点
自己決意の場を考える
 どんな発言や考えも受け止めて大切にしているか。
 多様な考えを提示して、お互いの考えに気づかせる工夫しているか。

視点は3の小中一貫の授業参観の視点から選択)

学習内容(O)・予想される生徒のようす(・)	教師の支援(△)と評価(☆)
【事前アンケートの結果を提示】 ○「きまり」という言葉からどのような印象を受けるか考える。 ・聖書い、ないとも関係、一時々めんどくさい ○「きまり」は、どんなことがあっても守らないといけないものか考える。 ・時と場合によって守らなくてもいいかも? ○本時の課題を確認する。 「きまり」は何のためにあるのか	アンケート結果を提示し一人ひとりの印考やクラスの傾向が分かるようにする。
○「二道の手紙」を読む。 ○自分が元さんなら、幼い姉弟を考えた理由をワークシートに記入 →ワークシートを黒板に貼る。 →何名か自分の考えを発表する。	教師の支援(△)と評価(☆) 心を開いて話し合う場を設けて、自分の立場を明確にして意見を述べた。
○姉弟が見つかるのを待っている間、元さんはどんな気持ちだったかを考える。 何かあったらどうしよう、自分の責任だ ○自分が元さんの立場だったら、この処分に納得できるか考えた理由をワークシートに記入 →ワークシートを黒板に貼る。 →何名か自分の考えを発表する。	考えの可視化 ↓ ケース

その他、付箋には以下のようなコメントが貼られています:

- 「きまり」は、どんなことがあっても守らないといけないものか考える。時と場合によって守らなくてもいいかも?
- 「きまり」は何のためにあるのか
- 「二道の手紙」を読む。
- 自分が元さんなら、幼い姉弟を考えた理由をワークシートに記入
- ワークシートを黒板に貼る。
- 何名か自分の考えを発表する。
- 姉弟が見つかるのを待っている間、元さんはどんな気持ちだったかを考える。
- 何かあったらどうしよう、自分の責任だ
- 自分が元さんの立場だったら、この処分に納得できるか考えた理由をワークシートに記入
- ワークシートを黒板に貼る。
- 何名か自分の考えを発表する。

拡大した指導案に、付箋にコメントを書いて掲示

取組の実際

②計画的な研修・研究職員会議の確保

- 昨年度の学校評価等に基づく校内組織や生活時程の改善
 - 二人担任制の解消
 - 終礼前読書を朝読書に。（シーズンごとにマラソンと読書を行う）

- 昨年度まで月1回の定例職員会議しか設定されておらず、予定外の研修・研究が入るため負担感が増していた。
 - 他の行事や活動を精選。年間行事予定に研修・研究職員会議を入れて、計画的に実施。

取組の実際

②計画的な研修・研究職員会議の確保

- 職員会議のはじめの5～10分を使って、全員が1回ずつ人権ミニ研修を行う。
→以前からの取組で、人権意識の醸成に効果的。
- 県教委の継続的な訪問指導を実施。さらに、教育センターや市教委から講師を招き、ICT活用について研修を行う。
→学びを深めることができている。
- 小中一貫教育の一環として、小中学校で授業研究会を実施したり、小学校の授業を中学校の教員が参観したりする。
→子どもの実態把握と、小学校の学びを知るよい機会。進んでいる小学校のタブレット活用も刺激になっている。

取組の実際

③教頭による研修・公開授業の実施

○道徳科の公開授業の実施

生き生きとタブレットを操り、教員に使い方を教えてくれる子どもたちの姿に驚きと感動。

→自分の専門教科でも使えそう！！

タブレットで入力する方がしっかり書けているかも！



取組の実際

③教頭による研修・公開授業の実施

○道徳科の公開授業の実施

失敗するロールモデルも “あり”



いろいろトラブルも・・・担任とのTTや子どもに教わって解決

取組の実際

③教頭による研修・公開授業の実施

○道徳科の公開授業の実施



教員も主体的に！
型にはまらない楽しい道徳
にチャレンジしよう！



成果と今後の課題

- 研究部に積極的に関与し、明確なゴールを共有できるような研究・研修体制の構築を図る。
- 教頭自ら、研修や研究授業に参画し、率先して学び続ける姿勢を示す。（失敗がむしろ効果的）

**ファシリテーターであり
ジェネレーター
（一緒に参加し、盛り上げる）**

成果と今後の課題

▲業務改善（学校行事、校務分掌、部活動の在り方をさらに検討）

**持続可能な研究・研修で
あるために**